



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和 5年 1月17日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ トミヤマタスケイタイ
団体名 とみやま助け合い隊
所在地
連絡先
フリガナ
代表者

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	とみやま助け合い隊
事業実施小学校区・地区	富山
事業実施回数	新規 ・ <u>継続</u> 5回目 / 【 令和 1年度から】
課題	1. 地域の実情 ・高齡化：当学区は、高齡化率が31、7%（令和4年11月末）と近隣地区に比して高く、高齡者一人暮らし、高齡者のみ世帯も増えている。（後期高齡化率 17、5%） ・公共交通機関（不便）：バスのみ。東西に通じる県道（西大寺線）を走るが、住宅地域は県道を挟んで広く南北にも広がっている。 スーパーマーケットは、いずれも県道沿いに立地している。 地域内に総合病院はなく、住民は市・中心部の総合病院を利用するケースが多い。 つまり、県道沿いの住民は通院や買い物にたやすくバスを利用できるが、県道から南北に離れた地域に住む高齡者や障害者にとって、バス停まで歩くのはきつい。 地区住民の日常生活は車への依存度が高く、高齡等により免許を返納すれば、不便度が一挙に上がる。 ★アンケート：「他地区への移住を考えている理由」として交通の不便を挙げる者が多い。 ・住宅の管理：住宅は戸建てが圧倒的に多く、日常的に草取りなどのメンテナンスが欠かせない。高齡化等による体力・運動能力の低下は、自宅の管理にも支障をきたす。 ・若年世帯：共稼ぎが当たり前となっているが、家事や子育てに老親の世話等が重なると勤務にも支障をきたす。 2. 課題、 住民は世代を問わず、日常生活上の困りごとを抱えている。困りごとを、いかに解決するか。地域社会を維持・発展させる上において、この問題は放置できない。 3. 事業実施の必要性 「高齡者に限らず住民がいつまでも住み慣れたこのまちで住み続けられる」ためには、日常生活上の困りごと解決を支援する（通院や買い物時の付添、庭の草取りなど）手段の提供が不可欠である。

事業の目的	本事業の目的は、住民が抱えている種々の困りごとと解決を支援すること（システムの提供）である。気軽に本システムを利用することにより、住民は、ほとんどの日常生活上の困りごとを解決することができる。 これにより、「住み慣れたこの富山でいつまでも住み続けたい」「富山に住んでいて、よかった」と誰もが考えるようなまちづくりを目指したい。
事業の内容・感染防止対策の内容	地域住民の日常生活上の困りごとと解決のための支援システム 1. 本システムの概要 <pre> graph TD A[困りごと支援・依頼者] -- ① --> B[コーディネーター] B -- ② --> C[サポーター（事前登録済み）] C -- ③ --> A A -- ④ --> C C -- ⑤ --> B </pre> （説明） ① 困りごと支援・依頼者 → コーディネーターにTEL ② コーディネーター（5名。週単位で交代）→ サポーターを斡旋 ③ サポーター（12月末、46名が登録）→ 支援を実施 ④ 依頼者 → サポート料を支払う ⑤ サポーター → 支援終了時に、支援内容・時間・料金等を報告 ★ 特殊な技術を要するもの、危険を伴う作業は対象外 ★ 有料・・・基本料金30分まで300円、以後10分増すごとに100円追加（一人につき） ★ 屋内作業・・・原則2人体制で行う。 2. 感染防止対策の内容・方法など ・サポーターに対して、支援に際しての体温測定・マスク着用の厳守を呼び掛けている。 ・全サポーターにマスク1箱（50枚入り）を配布した。 ・室内作業を伴う支援や新規の付添（買い物、通院など）については、感染状況を踏まえて、適宜、斡旋を自粛している ・理事会、サポーター会議、コーディネーター会議では検温を実施、マスク着用を義務付けている
期待される成果・目標	期待される成果 1. 自助・共助の意識を高め、住民自らがまちづくりに参加する。 自助を基本としつつも限界を超えた部分（困りごと）については、地域住民（サポーター）が支援する。（住民は、お礼をどうするかなどに気を使うことなく、支援を依頼できる）この積み重ねが、よいまちを作る。 サポーターのみならず、支援依頼者もまちづくりへの参加者である。 2. やさしさと素直さが表面に出る。（住民に表現機会を提供する） 本来、人は「やさしさ」と「素直さ」を併せ持つ。他人の困りごとをサポートすることは、「やさしさ」の表現であり、サポートに対し「感謝」するのは「素直さ」の表現である。住民の持つ「やさしさ」と「素直さ」が随所にコラボするまち「富山」を目指したい。 目標（令和5年度） ・利用件数 → 330件（12月末実績 284件 → +46件） ・サポーター登録 → 55名（12月末登録46名 → +9名） サポーター空白地域の解消に注力する。 ・財政基盤強化 → 民間助成金を活用する。 「クラウドファンディング」構築にチャレンジする。

企画などの工夫	1. 毎月（原則）、コーディネーター会議を開催、本システムの利用状況や課題について、コーディネーター間で共通認識を持つと同時に、改善策を協議している。 2. 隔月に理事会（小地域ケア会議と兼ねて）を開催、助け合い隊の現状やコーディネーター会議での討議事項について報告するとともに、以後の運営について協議している。 3. 支援依頼について、全件記録している（依頼者名、サポーター名、依頼内容、サポーター料、サポーターの感想、支援依頼者の感想等）。システムのレベルアップには、データを基にした不断の検証が欠かせない。 4. 毎年サポーター会議(兼研修)を開催、情報の共有化、意思統一を図っている。また、サポーターに年賀状・暑中見舞いを出状する等、事務局とのコミュニケーションに留意している。サポーターのモラルの維持には、平素のコミュニケーションが大切である。 5. 住民への広報を重視している。「とみやま助け合い隊ニュース」を発行(全戸配布)するとともに、学区主要団体の会議などでも極力、議題に取り上げてもらっている。								
協働する団体等	<table border="0"> <thead> <tr> <th data-bbox="292 779 547 813">団体名（協働を予定）</th><th data-bbox="810 779 954 813">役割（期待）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="323 813 643 846">・「オレンジカフェ 青春」</td><td data-bbox="818 813 1225 846">支援ニーズ発掘、サポーター発掘</td></tr> <tr> <td data-bbox="323 846 563 880">・ケアマネジャー</td><td data-bbox="818 846 1241 880">支援ニーズ発掘(介護保険との連携)</td></tr> <tr> <td data-bbox="323 880 778 913">・富山地区民生委員・児童委員協議会</td><td data-bbox="818 880 1010 913">支援ニーズ発掘</td></tr> </tbody> </table>	団体名（協働を予定）	役割（期待）	・「オレンジカフェ 青春」	支援ニーズ発掘、サポーター発掘	・ケアマネジャー	支援ニーズ発掘(介護保険との連携)	・富山地区民生委員・児童委員協議会	支援ニーズ発掘
団体名（協働を予定）	役割（期待）								
・「オレンジカフェ 青春」	支援ニーズ発掘、サポーター発掘								
・ケアマネジャー	支援ニーズ発掘(介護保険との連携)								
・富山地区民生委員・児童委員協議会	支援ニーズ発掘								
事業の情報公開	本システムは、設立の主旨(まちづくりの柱)からして地域住民（支援依頼者、サポーターだけでなく）への広報が大切と考えている。具体的には、下記を実施している。 1. マグネットシートを全戸に配布（実施済み） → 困った時は、まず電話！ 2. 「とみやま助け合い隊活動ニュース」の発行（原則：年2回を予定、全戸配布） サポートの現状や利用者の声、サポーターの思いを知ってもらい、「気軽に電話！」「気軽にサポート！」の雰囲気を作る。 3. 「とみやま文化まつり」でのポスター展示。 当隊に対して親近感を持ってもらう。 4. サポーター研修会議（募集説明会を兼ねて）を毎年開催 本システムの主旨や利用状況、サポートに当たって留意すべきこと等、全員が共通認識を持ってもらう。 本システムについての口コミによる広報や新規サポーターの紹介（友呼び）を期待している。サポーターとコーディネーターとの交流も兼ねている。								
学区地区への広がり	・学区全体を対象に実施している。								

前年度からの見直し拡充点	1. 前年度の事業成果 ・12月末1年間（1月1日～12月末）の支援実績 サポート受付 284件 （内訳）・草取り、剪定等庭の手入れ43件 ・病院、買い物等の付添 62件 ・買い物代行 50件 ・ゴミ出し 90件 ・資源化物出し8件 ・掃除・片付け 11件 ・修理 3件 ・洋服リフォーム3件 ・その他 14件（配布、〒投函 等） 2. 前年度からの見直し点 ★コロナ対応のため、屋内でのサポートや付添については、適宜、自粛（除く、継続案件）せざるを得なかった。 ・サポーター増員 現状46（前期比 -3、新規登録2、辞任-5） → 引き続き、増員を目指す、苦戦している。早急に、サポーター空白地域を解消したい。 → 町内会長会議で議論。町内ごとに目標を掲げ、適任者を推薦することとなった。 ・サポーターの斡旋に偏りが生じている リピーター依頼者によるサポーターの指名、コーディネート段階で実績のあるサポーターに声がけしやすいなどの実態がある。半面、登録はしているけれど、サポート実績のない者もいる。運営面での課題である。 ・財政の充実 → クラウドファンディングを検討。 3. 審査会でのコメント ★別途ご報告します）
次年度以降の予定	①次年度以後の活動計画（目標） ・サポーターの拡充 46人（12月末）→ 次年度目標 55人（増員9） 最終目標 70名体制をめざす。 ★各町内会に目標を提示、人選を依頼した。 ・サポーターゼロ地域の解消 ・支援件数 → 次年度目標 330件 ・多様性の視点を検討する → 支援依頼は、高齢者からがほとんどである。 若年者や、身体不自由者を対象にした支援メニューを開発する。 ・支援ニーズの発掘 → ケアマネとの連携を促進する。 → 民生委員との連携をはかる。 ②資金の確保について ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☐ （ ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策： 民間助成金を活用する。 クラウドファンディングにチャレンジする。
その他PRしたい点	特になし。

事業スケジュール（企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。）

月日	活動内容
4月6日	・役員会 ・コーディネーター会議
5月	・会計監査 ・「とみやま助け合い隊活動ニュース第5号」発行
6月1日	・役員会兼総会 ・コーディネーター会議
7月	・コーディネーター会議
8月3日	・役員会 ・コーディネーター会議
9月	・コーディネーター会議
10月5日	・役員会 ・コーディネーター会議
11月	・サポーター会議 ・コーディネーター会議 ・「とみやま助け合い隊活動ニュース第6号」発行
12月7日	・役員会 ・コーディネーター会議
1月	・コーディネーター会議
2月1日	・役員会 ・コーディネーター会議
3月	・コーディネーター会議

収支予算書

収 入

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	105,200	137,200	$180,870 \times 1/2 - 46,860 = 137,200$
実施団体負担金	11,471	530	
参加者負担金	0	0	
協賛金			
寄附金、他収入(広告料)	0	40,000	
自治振興会補助金	50,000	50,000	
収入合計	166,671	227,730	

支 出

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額 (見込み額・積算参照)	予 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	19,940	23,830	予算書 積算①参照
②食糧費	0	4,000	予算書 積算②参照
③印刷製本費	26,101	65,000	予算書 積算③参照
④燃料費			
⑤光熱水費			
⑥通信運搬費	59,600	65,900	予算書 積算⑥参照
⑦広告料			
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料	5,000	10,000	予算書 積算⑪参照
⑫工事請負費			
⑬報償費			
⑭保険料	12,140	12,140	予算書 積算⑭参照
⑮旅費			
小計(①)	122,781	180,870	
⑯新型コロナウイルス 感染症防止対策経費	43,890	46,860	予算書 積算⑯参照
小計(②)	43,890	46,860	
支出合計(①+②)	166,671	227,730	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください。)

補助金(3/4)の概算払いを	希望する ○希望しない
----------------	------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。